

大阪市 第33回 ハウジングデザイン賞

表彰目的

昭和62年度から始まった大阪市ハウジングデザイン賞は、大阪市内で供給された魅力ある良質な都市型集合住宅を表彰し、その優れた面を明らかにすることにより、良質な都市型集合住宅の供給を促進するとともに、広く市民の方々や住宅供給に携わる人々の住宅に対する関心を高めていただくことを目的としています。

対象

大阪市内に建つ民間の「共同住宅」「長屋」「戸建住宅の集合」で、概ね過去5年以内に完成した(改造等を含む)魅力ある良質な住宅や、維持管理が適切に行われ、住宅や住環境が良好に保たれている完成後20年を経過した住宅を対象としています。また、団地の全体計画等に優れたものについては、団地全体が完成した時点で全体を審査対象とすることができます。

推薦方法

毎年、6月頃に対象となる民間の都市型集合住宅の推薦を募集します。どなたでも推薦できます。

賞の種類

賞の名称は「大阪市ハウジングデザイン賞」とし、そのうち、総合的な観点からみて特に優れたものを「大賞」、特定の分野において特に優れたものを「特別賞」として表彰します。

表彰

表彰対象住宅の事業者、設計者、施工者、管理組合、管理会社等を表彰します。また、住宅には受賞を表す銘板を設置します。

総評

今回で第33回を迎える大阪市ハウジングデザイン賞の募集に対して、179件の応募があった。ストックの時代と言われるようになって久しいが、本年度も新築住宅の応募が多く、既存住宅の改修や維持管理の応募が少ない状況が続いている。

さて、本年度の大阪市ハウジングデザイン賞選考有識者会議では、書類審査、現地審査を経て、多面的な視点から委員相互の議論を重ね、ハウジングデザイン賞2件を選定した。

今回ハウジングデザイン賞に選定した住宅の一つは、梅田近くに立地する新築超高層分譲集合住宅である。本作品は、屋外緑地を整備するだけでなく、従前敷地内の店舗などを低層部に組み込み、また、店舗棟屋上を住宅棟共用部分と繋ぐなどの工夫がみられ、良好な住宅とまちの関係を作り上げた計画となっている。両者の関係を継承した仕組みである、小規模な再開発事業ともいえる事業プロセスや、住宅設計全体に一貫している環境への配慮なども高く評価された。

もう一つの受賞住宅は、道路を挟んで鞆公園に対面する賃貸集合住宅である。一般の賃貸住宅では考えられない高階高による開放感は、敷地条件の解釈を含めて高く評価できる。また、見上げられることも想定したバルコニーの底部などを含めた意匠も優れていると言えるが、一方で、住戸内については多様な住まい方を制約しない住宅に適したデザインでまとめられている。

いずれの住宅も、大阪市ハウジングデザイン賞の理念である、住宅とまちとの関係を重視した都市型集合住宅のモデルとして高く評価できる。次年度以降もこうした取り組みが展開していくことを期待したい。

(選考有識者会議委員長・高田 光雄)

審査

推薦のあった住宅について、「大阪市ハウジングデザイン賞選考有識者会議」において意見を聴取し、次の審査基準により書類審査、現地審査を行って選考します。

- (1)市民の多様なニーズや地区の特性に対応した水準の高い住宅
- (2)外観デザイン、配置計画、住戸計画等に優れ、魅力ある住宅や住環境となっているもの
- (3)新しい技術の開発や斬新なアイデアの導入、実験的な取組等により、快適な住空間が形成されているものや新たな提案がなされているもの
- (4)人にやさしい住まいづくりの観点から、適切な配慮がなされているもの
- (5)既存建物を有効に活用し、優れた改造等が行われているもの
- (6)維持管理が適切に行われ、住宅や住環境が良好に保たれているもの
- (7)戸建住宅の集合は、緑地や広場等の共用空間が充実しているもの
- (8)その他、住宅や住環境に関して優れているもの

選考有識者会議

【委員長】高田 光雄 (京都美術工芸大学教授・京科大学名誉教授)

【委員長代理】江川 直樹 (関西大学教授)

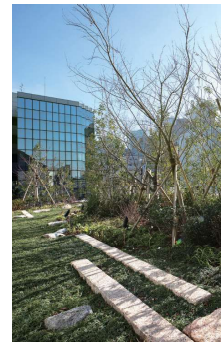
【委員】大谷由紀子 (摂南大学教授)

中嶋 節子 (京科大学大学院教授)

難波 里美 (株式会社難波不動産鑑定代表取締役)

宮嶋 有樹 (日本放送協会大阪放送局編成部副部長)

グランドメゾン新梅田タワー [分譲]



「うめきた2期区域」で期待が高まる大規模な梅田再開発エリア、シンフォニーホール隣という好立地にあるこのタワーマンションは店舗棟と住宅棟から構成されている。シンプルな外観の印象だけではこの物件の魅力は伝えられない。

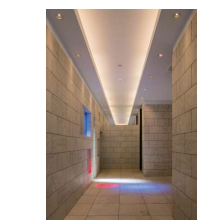
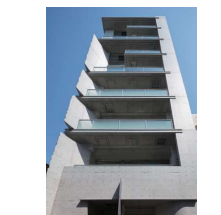
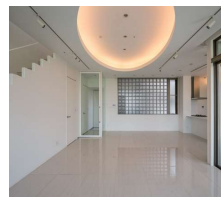
元々の建物にあった店舗を南側の新規低層棟にいったん移動させた後に、高層住居棟を着工、それらを繋ぐというプロセスを経て完成に至っており、街と生活形成という視点で生み出された珍しい好例と言える。店舗棟屋上と一体的に配置したテラスや共用施設の工夫も好印象であった。

多岐にわたる環境への取組もこの物件の特徴で、各戸に配備した家庭用燃料電池による大幅なCO2削減対策、化学物質を抑制する室内壁素材と換気による空気環境向上の他、非常時の電源多重化に代表される多くの防災対策など、新しい技術や仕組みが多く取り入れられている。見た目わかりやすい華美なエントランスや外装の主張が強い高層マンションが多い中で、長く住む人の快適性に貢献できる機能を目指したコンセプトが高く評価された。

(選考有識者会議委員・宮嶋 有樹)

所在地：北区大淀南2丁目
 事業者：積水ハウス株式会社大阪マンション事業部
 設計者：株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所
 施工者：株式会社竹中工務店
 構造・規模：鉄筋コンクリート造、地上39階、297戸
 敷地面積：2,699.65㎡
 建築面積：1,534.88㎡
 延べ床面積：36,559.80㎡

VALTHAUS [賃貸]



建築は、場所との応答でつくられる。その場所に、そして周辺の状況の中で、そこにしかない建築、そこにあるのが最もふさわしい建築とは何かを探り出し、施主や施工者等との協働作業で実現される。だが、答えは一つではない。まちは多様な要素で成り立ってほしい。多様な考えで、多様な価値観を持つ人々で成り立ってほしい。建ちならぶ建築群も、その多様さゆえに魅力的な街なみとなってほしい。

VALTHAUS(賃貸)は、そんな建築を目指していると思える。北に東西街路をはさんで鞆公園を臨み、南にも東西街路に面する立地。アクセス空間を中に挟み、南北に多様な機能に対応できるシンプルな住戸を配する構成。特色は「居住空間を超える開放感」と称する2.75m以上確保された天井高(階高は約4m)と豊かなバルコニー。住宅としても適度な丁寧さ。適切と思える住戸毎の好ましい差異を創出する内部空間と外部ファサード。小さな玄関ロビーも、良質なテイストと空間性によって気持ち良い。以上を総合して、本賞にふさわしい作品と評価された。

(選考有識者会議委員・江川 直樹)

所在地：西区鞆本町1丁目
 事業者：株式会社FUKU BLD.
 設計者：株式会社若林広幸建築研究所
 施工者：株式会社松村組大阪本店
 構造・規模：鉄筋コンクリート造、地上9階、14戸
 敷地面積：271.40㎡
 建築面積：200.87㎡
 延べ床面積：1,176.32㎡

撮影者：松村芳治